

<p>水稲品種「<u>レーク65</u>」の収量および玄米外観品質向上技術</p>			
<p>【要約】「<u>レーク65</u>」の<u>収量</u>に及ぼす影響は移植時期よりも<u>基肥量</u>の方が大きい。収量を高めるためには基肥量を「キヌヒカリ」と同程度からやや多く施用する必要がある。また、<u>玄米外観品質</u>は黒点症状米や茶米の多発に左右されるが、<u>2.0mmの網目</u>で調製することにより向上することができる。</p>			
<p>農業技術振興センター 栽培研究部 作物担当</p>		<p>【実施期間】平成17～19年度</p>	
<p>【部会】 農産</p>	<p>【分野】 高品質化技術</p>	<p>【予算区分】 県単</p>	<p>【成果分類】 指導</p>

【背景・ねらい】

平成17年度に指定品種となった水稲新品種「レーク65」について、移植時期と基肥量が収量および外観品質に及ぼす影響を調査した。併せて黒点症状米および茶米の発生による品質低下対策を検討し、「レーク65」の栽培技術確立に資する。

【成果の内容・特徴】

窒素成分で基肥に1.5kg/10a施用の場合、同3kg/10aに比べて、5月上旬移植では穂数約400本/m²が確保されるものの、登熟歩合と千粒重の低下により減収し（データ略）、5月中下旬移植では穂数不足により減収する（図1）。

窒素成分で基肥に3kg/10a、穂肥に3kg/10a施用すると、移植時期の早晚にかかわらず穂数約400本/m²が確保され、約540kg/10aの収量が見込める（図1）。

m²当たり籾数28,000～30,000粒を確保するためには、m²当たり籾数との相関が高い幼穂形成期の窒素吸収量を「キヌヒカリ」よりやや高める必要がある。このことから、基肥量は「キヌヒカリ」と同程度からやや多く施用する（図2）。

検査等級は年次によって大きく異なり、黒点症状米および茶米の多発生が強く影響する（表1、2）。

2.0mmの網目で調製することにより、黒点症状米および茶米を選別でき、検査等級2～3等をほぼ1等とすることができる（表2）。

【成果の活用面・留意点】

基肥は緩効性肥料（速効性55% + 70日リニアタイプ被覆尿素肥料45%）を全層施肥し、穂肥は速効性肥料を使用した。

これらの成果は湖辺粘質地帯の安土町大中の圃場で栽植密度60株/坪（18.2株/m²）で栽培した結果である。

茎数確保のため、栽植密度は60～70株/坪が望ましい。

[具体的データ]

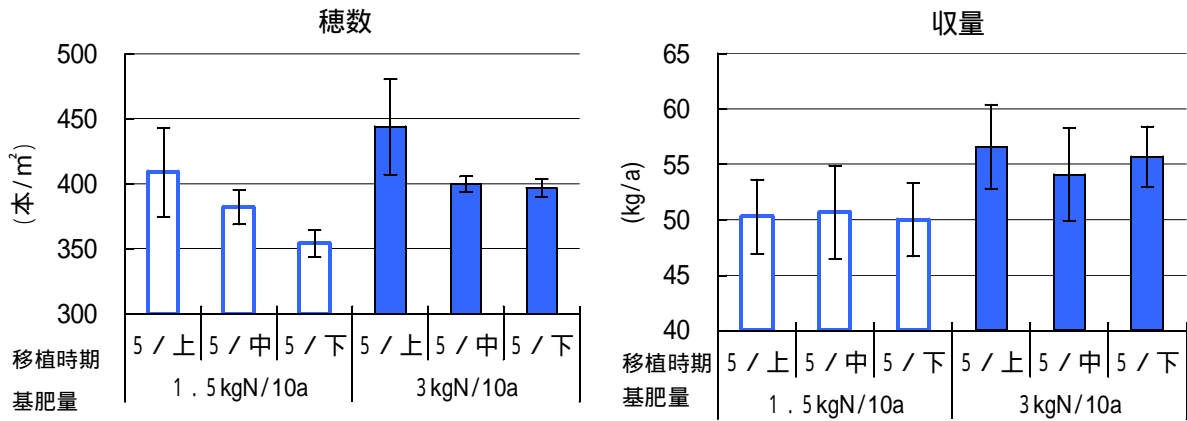


図1. 「レーク65」の穂数と収量
 移植日は5/上:5月3日、5/中:5月15日、5/下:5月25日(3カ年の平均)
 図中のエラーバーは標準誤差(n=3)

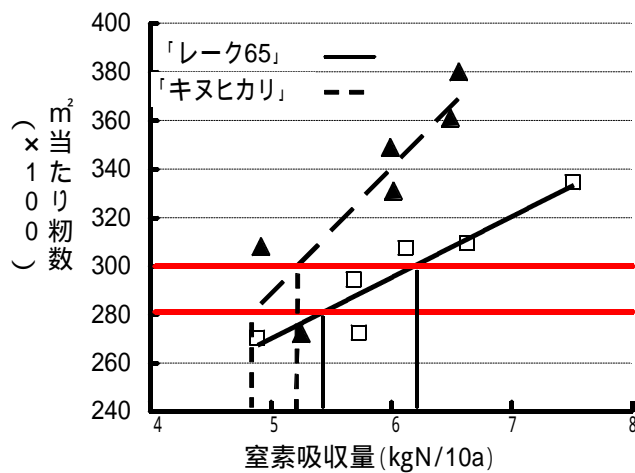


図2. 幼穂形成期の窒素吸収量とm²当たり籾数との関係 (H17年)

表1. 年度別の等級および2等以下格付理由

年度	移植時期	農政事務所	
		基肥 (kgN/10a)	等級 格付理由
H17	5 / 上	1.5	3 着色
		3	2 着色
	5 / 中	1.5	2 着色
		3	1
H18	5 / 上	1.5	3 着色
		3	3 着色
	5 / 中	1.5	1
		3	1
H18	5 / 下	1.5	2 その他未熟
		3	1

注) 全て1.8mmの網目に通したサンプル

表2. 網目別検査等級と2等以下格付理由および網目別の黒点症状米・茶米粒数 (粒/2000粒)

年度	移植時期	基肥量 (kgN/10a)	1.8mm		2.0mm		黒点症状米		茶米	
			等級	格付理由	等級	格付理由	1.8mm	2.0mm	1.8mm	2.0mm
H19	5 / 上	1.5	3 着色	1		1	0	140	27	
		3	2 その他未熟	1		4	0	125	22	
	5 / 中	1.5	2 その他未熟	1		1	0	86	22	
		3	2 その他未熟	1		2	1	85	21	
	5 / 下	1.5	2 その他未熟	2 心白	1	0	90	25		
		3	2 青未熟	1	1	1	79	21		

注) 着色:黒点症状米および濃い茶米、その他未熟:薄い茶米など(表1、2共通)

[その他]

- ・研究課題名
 大課題名: 水稻・麦類・大豆品種改良試験および栽培試験
 中課題名: 水稻・麦類作況調査ならびに品質向上試験
- ・研究担当者名: 吉岡ゆう(H19)、中井譲(H17~19)、中嶋治男(H17)
- ・その他特記事項
 平成18年度要請課題(高島県事務所、湖東地域振興局、湖北地域振興局)
 平成19年度要請課題(南部振興局)